



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/8 (月)	▲ 1,000	+ 2,000	トン	国庫短期証券発行償還 (3M)	社債等買入 国債補充供給 ▲500 500		日：GDP(7~9月期改定値) ：貿易収支(10月) 米：NY連銀1年インフレ期待(11月)
12/9 (火)	▲ 2,000	+ 1,000	▲ 1,000				日：植田日銀総裁が英紙フィナンシャル・タイムズのイベントで講演 米：FOMC(1日目)
12/10 (水)	▲ 1,000	▲ 24,000	▲ 25,000	国庫短期証券発行償還 (6M) 国債発行 (5年)	共通担保 ▲ 8,000		米：FOMC(2日目) ：財政収支(11月) 欧：ラガルドECB総裁が英紙フィナンシャル・タイムズのイベントで講演
12/11 (木)	▲ 3,000	+ 3,000	トン				米：貿易収支(9月)
12/12 (金)	▲ 2,000	▲ 9,000	▲ 11,000	国債発行 (20年) 源泉税揚げ			日：鉱工業生産(10月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比44,000億円減少し、482兆6,500億円から始まった。その後、国債発行や税・保険揚げ等の要因により増減し、5日は471兆1,000億円（速報）で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.471%~0.660%のレンジ、1M~3M物0.680%~0.830%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では12月8日にGDP(7~9月期改定値)、9日に植田日銀総裁が英紙フィナンシャル・タイムズのイベントで講演、海外では9日と10日にFOMC、10日にラガルドECB総裁が英紙フィナンシャル・タイムズのイベントで講演、11日に米貿易収支(9月)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ~ 0.478
1M	0.60 ~ 0.72
2M	0.62 ~ 0.78
3M	0.68 ~ 0.85
6M	0.80 ~ 1.00

<レポ>

足許GCは週を通して+0.50%~+0.505%の狭いレンジで取引された。買い入れオペのあった3日や、短国の発行があった5日の取引も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年470~477回債、5年155~181回債、10年356~371、378~380回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.75%~ 0.90%

<CP>

今週の入札発行総額は約7,620億円で、週間償還額の6,945億円を上回った。発行残高は、先週末時点の25兆4,529億円から、12月4日時点で25兆9,510億円へと増加した。発行市場では、卸売業・建設業・その他金融業をはじめとする幅広い業種で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.60%台から0.70%台、3か月物で0.80%台を中心に、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約2兆400億円となっている。発行市場は、先週に引き続き、事業法人の賞与支払いに向けたCPの利用が想定され、相応の発行が見込まれる。発行レートは、12月の金融政策決定会合を超える案件では、日銀の政策修正への警戒感から、引き続きレート水準を探る展開が見込まれるであろう。

<TDB>

5日の3M (1348回債) の入札は、最高落札利回り0.6361% (前回債0.5576%)、平均落札利回り0.6260% (前回債0.5187%) となった。

来週の入札は9日に6M、12日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。